

着衣着火防止のポイント

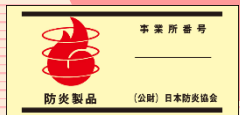
- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろのまわりに物を置かないようにしましょう。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しています。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで正しく使いましょう。



防災品を使いましょう！

火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。

(例)



このラベルが目印！

*一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです！！

もし着衣に火が着いてしまったら…

脱ぐ、たたく、水かけるなどして早急に消火し、119番通報を行いましょ！

問合せ先 東京消防庁防災安全課 電話番号03-3212-2111 内線4196

令和2年10月発行

STOP！住宅防火シリーズ①

火災から命を守ろう

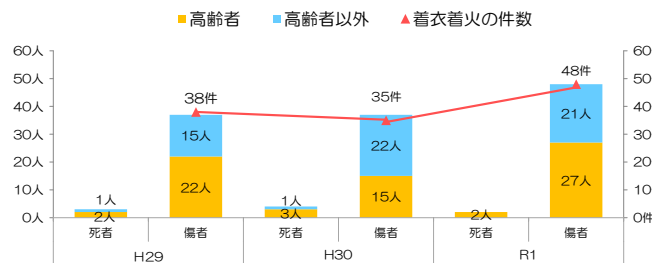
STOP！着衣着火

東京消防庁

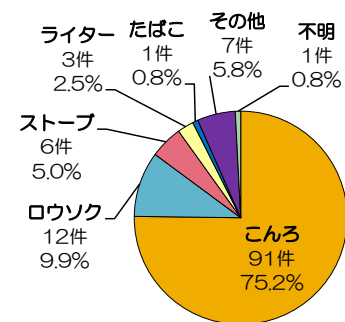
着衣着火による高齢者の死者が多発！

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。令和元年の死傷者が発生した着衣着火による火災件数は48件となり、前年と比較すると13件増加しています。

また、令和元年の着衣着火による死者数は2人となり、前年と比較すると2人減少しています。



死傷者が発生した着衣着火件数・死者数・傷者数 (H29~R1住宅内 自損は除く)



着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災は約7割以上を占めています。

こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

出火原因別着衣着火件数 (H29~R1住宅内 自損は除く)

N=121

こんろによる着衣着火

過去3年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(H29~R1住宅内、全91件、死者5人、傷者91人)

顔 (3人)

女性60代は、自宅の台所で調理をしていた際に、首に巻いたスカーフがこんろの火に接触して、着火し、受傷した(重篤)。

手、腕 (28人)

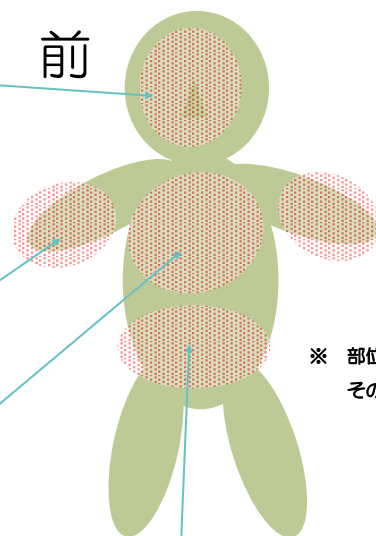
① 女性80代は、こんろで調理をしていた際に、調理台の奥に調味料を戻そうとして、手を伸ばしたところ着衣に着火し、受傷した(軽症)。

② 女性70代は、ヤカンでお湯を沸かしていた際に、パジャマの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した(中等症)。

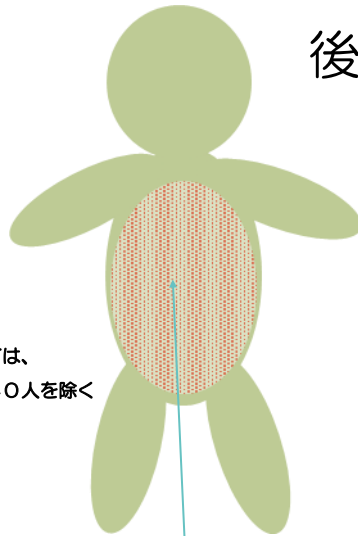
胸部 (8人)

男性80代は、調理中にこんろの左側に置いてある調味料を取るため、手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

前



後



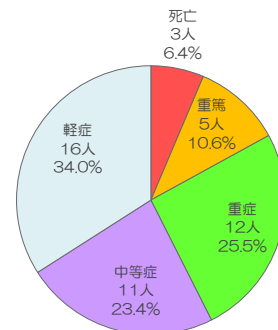
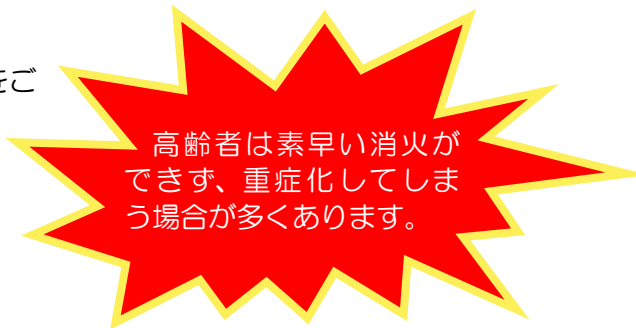
※ 部位については、
その他部位40人を除く

腹部 (4人)

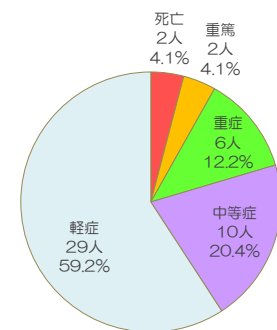
女性20代は、調理を始めたところ、こんろに近づき過ぎてしまい、着衣に着火し、受傷した(中等症)。

背部 (13人)

女性40代は、調理中に、冷蔵庫を開けるために、こんろに背を向けた際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。



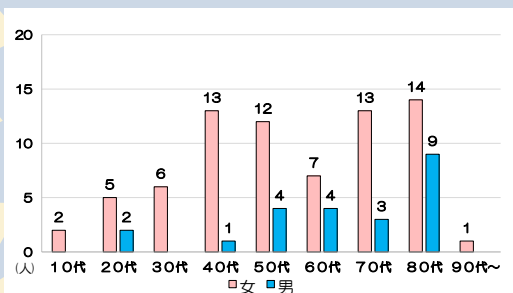
受傷程度別死傷者数 (65歳以上)



受傷程度別死傷者数 (65歳未満)

こんろによる着衣着火の死傷者は、女性は男性の3倍以上です。また、年齢では、80代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。

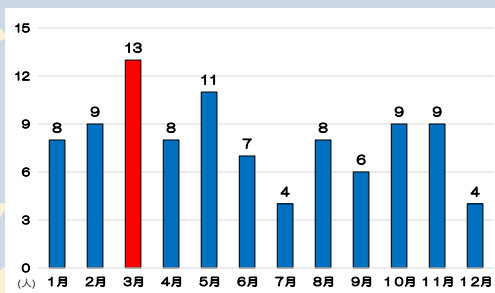
女性に多い



【性別・年齢】

こんろによる着衣着火は、年間を通して発生しており、特に3月に多く発生しています。

生活・服装の変化



【発生月】

着衣着火防止のポイントは裏面をチェック!

